

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472200443		
法人名	社会福祉法人 鶴寿会		
事業所名	グループホーム さわやか		
所在地	宮城県柴田郡川崎町大字川内字筑畑8-3		
自己評価作成日	平成30年10月	3日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成30年10月	17日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日利用者様の笑顔を引き出し充実した生活を実感して頂ける様、挨拶や声掛けに心配りを行い敬意を持った支援に努めています。レクリエーションや季節ごとの行事にも工夫を凝らし、自然豊かな立地条件を生かし四季の移り変わりを身体で感じて頂ける様散歩や外気浴などにも力を入れています。木造平屋の建物で冬は自然な暖かさ夏は風通しよく涼しい風を感じながら過ごして頂いています。どこからでも中庭を眺められるようになっており、季節ごとの草花を育てたり野菜の成長を見守りながら収穫の体験もして頂き喜んでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川崎町役場から北へ6km向かった国道457号沿いの木立の中に「グループホームさわやか」がある。ホームは中庭を囲む回廊型の平屋で、日当たりが良い。職員の話合いで「笑顔でふれあい」「できることを見出しその能力を発揮できるように」等を理念に掲げ、庭の草取り、窓拭き、里芋や栗の皮むき等、入居者のできることを貰い、生きがいに繋げている。敷地内に同法人の特養、軽費老人ホームがあり、夏祭り、運営推進会議、避難訓練などを合同で開催している。災害時や救急搬送等の緊急時に支援が得られることが、安心に繋がっている。職員は、「職員が明るいこととチームワークの良さがホームの自慢」という。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームさわやか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員での話し合いのもと地域密着サービスの意義を踏まえた事業所理念を考え、毎朝唱和して職員間で共有しながら日々の業務につなげています	毎年4月に理念を見直している。今年度は「笑顔でふれあい」「できることを見出しその能力を発揮できるように」等を掲げた。里芋や栗の皮むき等、できることをして貰い、入居者の生きがいに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の行事に積極的に参加し、法人行事にも地域の方に参加して頂けるよう呼び掛けています。また、町の社会資源を利用していくことで日常的にも地域とのつながりを持ちやすくしています。	町民文化祭に手作り写真立てを入居者自身で展示した。商工会祭、農林業祭に出掛け、地域の人との出会いの場としている。法人合同夏祭りで、近隣住民をバスで送迎する等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの養成講座を受講しさわやかとしてのメイト人数を増やし認知症の普及活動に多くかかわっていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行われる運営推進委員会では、施設の広報などをもとに活動や取り組みについて報告し、意見交換やほかの情報提供を頂いたりご家族様からの要望などもお聞きすることでサービスの向上につなげている	町職員、社協役員など参加し、法人3施設合同で年6回開催している。看取りやボランティア交流、出没する猿対策などが話し合われ、参加者からの意見も多い。猛暑対策の意見を受け、全居室に扇風機を置いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催で行っている介護職員向けの研修会には積極的に参加し町の職員や他事業所との交流を図るとともに情報交換の場ともなり協力関係を築き上げるきっかけとなっている	町主催の「介護サービス事業所職員研修会」への参加や「ケアマネージャー研修会」で困難事例の成果発表をする等、協力し合っている。町の介護施設合同の運動会で、職員同士の交流がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束での研修に参加し参加者からの報告を受け職員全員に身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解していくよう努めています。玄関の施錠についても日中はチャイム対応とし抑圧感のない支援を目指しています。	「高齢者障害者権利擁護研修会」等に参加し、全職員に伝達した。居室には、センサーを付けていない。ふらつきのある入居者には、家族の了解を得て居室ドアに鈴を付け、転倒しないよう見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者様に敬意を持った支援に努め、見えないところでの虐待に及ばないように注意を払い、研修に参加したり職員会議の場での話し合いを行い虐待が見過ごされることがないように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し学ぶ機会を持っており現在保佐人の付いている利用者様も受け入れていることから町とも連絡を密にしながら対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書やさわやかの利用契約書をもとに十分な説明を行い理解納得を図るとともに利用料金の改定など行われた際には速やかに連絡を取り不安や疑問点の解消に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランを立てる際においても家族様やご本人様に十分な話を伺い要望や意見などを反映させるようにしている。必要に応じてご家族様に電話を入れ細かい連絡を怠らないように話しやすい雰囲気づくりに努めている	運営推進会議や来訪などの機会に家族の要望、意見を聞いている。「駐車場が狭く、陥没があつて危ない」との意見で、修復工事をした。「好きなものを食べさせて」等の家族の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場や毎朝、夕の申し送り時または毎日曜日に行っているケアカンファレンスの場において意見交換できる場を設け意見や提案を出し合っている。必要に応じて管理者会議の場に反映させています	パッド変更の職員提案があり、排泄の失敗を減らす等の成果があつた。食べ物を吐き出す入居者の対応を話し合い、医師に相談した。食べ物が飲み込みにくくなったことが原因と分かり、食事や声掛けに気をつける等を全員で申し合わせた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課の際に職員が自分で頑張ったところなどをアピールしていただき評価につなげています。職員一人一人の努力を把握し向上心を持って働けるように努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容により職員の力量に合わせ参加できるよう努めています。法人内外の研修に公平に参加していけるよう勤務状況に合わせた対応を行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修や町の同業者との研修会など積極的に参加し交流する機会を設け、ネットワーク作りを強化している。また法人内で行われる事業所ごとの実践発表会では勉強会も兼ねておりサービスの質を向上させる取り組みとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のご本人様との面談において困っていることや要望など伺い不安を取り除けるようにしています。ケアプランにも反映させ職員が内容を共有し柔軟な支援により安心を確保できる関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談でご家族様の立場からの困っていることや不安なことなどに耳を傾け細かいことにも連絡を取り合い信頼関係づくりに努め安心してご利用いただけるよう取り組んでいます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントのための情報収集シート151に基づき必要としている支援を見極めています。必要に応じて他のサービス利用にも対応していけるよう柔軟に心がけています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さわやかの理念の一つとして、出来ることを見出しその能力を発揮できるように手助けしていきます。ということ掲げており笑顔でふれあい快適で心地よい雰囲気の中暮らしを共にする者同士の関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さわやか便りや月ごとの近況報告などでご家族様とは密に連絡を取り合うことで施設に関心を持っていただきご家族様との関係を絶やさないように努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	要望に応じてなじみの場所での買い物や入所前に通っていた町の温泉施設など積極的に利用するようになじみの人や場所との関係が途切れないよう支援しています	昔の同級生との出会い、姪への手紙、地域の祭り等、馴染みの関係継続を大切にしている。個別支援で入居前に住んでいた近所のコンビニによく行き、サンタクロースに扮した店長の来訪に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや季節ごとの行事等で他利用者様との交流を深めかわりあいながら孤立せずに楽しく暮らしていただけるよう支援に努め、程よい関係性を保ちながら支え合えるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の状況に応じた対応をしており、面会に行き近況を確認したり相談に応じたり経過をフォローし関係を断ち切らない取組みに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から言葉を引き出し思いをくみ取るようにしています。言葉を発しない方でも表情やしぐさを見逃すことなく意向の把握に努め、場面に応じてご自分で意思決定できるよう設定し確認しています	日常会話から誕生日に食べたいものや行きたい所などの希望を把握している。普段の様子を把握し、何もしていない時に「新聞を読みますか」と声掛けする等、本人のペースで暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りやアセスメント又は日々の会話の中から一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方などを把握し、継続性のある生活を支援していけるよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方など気づきノートに記録し健康面や食事状況排泄状況なども含めて細かく記録し申し送っていくことで全職員が共有し現状の把握をすることができている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に一度のケアカンファレンスや申し送りの際又は職員会議の場においてケアのあり方について話し合い、場合によってはご家族様とも相談しながらより良いアイデアや意見を出し合いより良く暮らすための介護計画につなげている	「みんなで楽しく暮らして貰いたい」の要望で、レクリエーション行事で皆と関わる場面を増やす等を計画に入れた。計画は、6ヵ月毎に見直している。医師の助言は、随時計画に反映する。ケアの気づきで、シルバーカーを使って貰い、歩行の安定につながった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の日々の様子やケアの実践など気づきノートや業務日誌に記録し職員間で情報を共有し共通の認識のもと実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて本人やご家族様と十分に話し合いより良い方向につなげていけるよう柔軟な対応に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町で運営している温泉施設や食堂、公園などの地域資源を活用し季節ごとの行事や個別支援にて豊かな暮らしを実感していただけるよう支援している。また身近な自然の中での山菜採りや栗拾いなどで心身の力を大いに発揮していただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族などの希望を大切に継続的に適切な医療を受けられるよう支援しています。ご家族様だけの付き添いの場合は施設内での様子が明確に伝わるよう説明したり場合によっては記録したものをお渡しし関係を築いています	医療機関は、本人、家族の要望に添っている。毎月、眼科医の訪問診療がある。家族が通院付き添いをした時は、薬の変更や医師の指導を申し送りノートに記録し、職員間で共有する。救急搬送時は、隣接する法人施設職員の協力が得られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している同法人の看護師に協力を得ており連携を図りながら急変時の対応や処置方法について指導を受け、適切な受診や看護につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には症状に至るまでの経緯や既往歴、ADLなどの情報を明確にしたサマリーを作成し病院側へ提出し、情報交換や相談に努めています。それ以前にも定期受診の付き添い時などにおいて病院関係者との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族様が不安にならないよう早い段階から当施設で出来ること事と出来ない事を説明し理解を得て頂き今後の方針について考えて頂いています。重度化の場合においては同法人の特養への利用も可能であることをお知らせしていますが状況や症状によって柔軟に対応しています	入居時に「ターミナルケア(看取り)指針」を説明する。重度化等の対応では、本人、家族の意向を尊重し、特養へ生活拠点を移し医療機関との調整を支援する。「できる限りここで暮らさせて」の要望が多い。食べられなくなっても医師の協力を得て、家族と一緒に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が救命救急の講習を受けていますがその時だけのものにならないよう、消防署立会いの避難訓練を行い救命救急や応急手当の指導を受け、とっさの行動につながるよう実践力を身に付けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している同法人の特養と軽費老人ホームの3施設にて合同の避難訓練を年3回実施しています。お互いの施設から応援者を出し、休日や夜間など色々な場面を想定した訓練を行い状況に応じた避難ができるよう協力体制を築いています	避難訓練は、夜間想定を含めて年3回実施している。前回の訓練では、出火確認から避難完了までの時間経過の記録があった。「非常口に避難者が集まり外に出難かった」との反省があったが、消防署員から「避難時間は10分、良くできた」の意見があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し敬意を持った支援を心がけています。自分自身の言動を振り返りながら介護する側とされる側の立場が逆転してしまわないよう、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意を払っています	家庭的な中でも、一人ひとりを尊重して対応している。見下したり、子ども扱いする話し方をしないよう、職員同士で申し合わせている。入浴やトイレを使用しているときは、ノックをし、言葉かけに注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日着る服を選んで頂いたりバイキング形式の食事を取り入れ自分で好きな物を選んで食べる機会を作っています。決めることが難しい利用者様には選択肢を少なくしたりさりげない声掛けを行って自己決定につながるよう支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分で動けない利用者様には行動することにごどうしたいのか話を伺い希望に沿って支援を行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際の衣類選びや帽子の着用等楽しみながら選べるようにゆっくりとせかささない声掛けを心がけています。また朝の起床支援時にはなるべくご自分で髪をとかして鏡を見ての整髪や髪飾りなども選んでいただいています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時に好きな物を選んで食べられるバイキング食を提供したり誕生日の際にはその方の要望を叶えた献立にするなどして食事内容に幅を持たせ楽しみな時間になるよう工夫しています。準備や後片付けに関してもできる事を無理せず安全に継続していけるよう声掛けしています	入居者の好みを把握し、職員が献立を作成している。中庭で育てたキュウリやトマト等の季節の野菜を取り入れている。誕生日には、家族にも声を掛け、本人の希望に沿ったメニューや外食で祝っている。準備や後片付けができる入居者は少なくなってきたが、できる人には手伝って貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、排泄を合わせたチェック表とバイタルと食事服薬、口腔ケアを合わせたチェック表にて一人一人の状態把握ができるようにし、体調変化に早期に気付き状態に応じた対応ができるよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行ない確実にできない利用者様には手伝い支援を行っています。口腔ケア用品も毎週消毒を行い清潔な物を使用して頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表やその日の行動、仕草、食事量等を注意深く観察しさりげない声掛けから自立に向けた支援につなげられるようにしています。紙おむつの種類もその方のその時の状況に合わせた物を使用しているよう日々検討しています	全員がトイレで排泄し、自立に向けた支援をしている。入居者の体調などを把握し、それぞれした仕草を見た時は、さりげない声掛けでトイレに誘う。夜間は安眠優先としているが、尿意が分からない1名のみ起こし、パッドを交換する。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の状況を確認し、水分の補給や繊維食品乳製品の追加等で便秘予防に工夫を凝らしています。また散歩や軽運動を促しストレスなく体を動かせるよう配慮しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜、水曜日以外は毎日入浴できるようにしています。状況やタイミングをみて先に入りたい方や最後にゆっくりと入りたい方など要望を伺い不安や戸惑いなく安心して入浴して頂けるよう配慮しています。入浴後の着換えも一緒に選び個々に沿った支援をしています	入浴は、本人のペースに合わせている。車イスを使う方も立ち上がりと座位を保つことができ、浴槽に浸かれる。入浴の声掛けで、「今はいい」と言われたときは時間をずらしたり、翌日に入ってもらう。冬季は、セントラルヒーティングで脱衣所を暖める。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や体調などを把握し状況に応じた声掛けができるよう心配りしています。安心して気持ちよく休んで頂けるよう寝具類の調整や清潔保持にも配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋用ファイルを作っており一人一人の服薬内容が確認できるようにしています。薬が追加されたり内容に変更があった際には服薬後の症状の変化がないか注意深く見守っています。服薬の確認のため個人別健康チェック表に記録しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意にしてきたこと等をお聞きし、役割や楽しみごとにつなげていけるように支援しています。散歩に出かけたり色々なレクリエーションを楽しむことで気分転換を図って頂いています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり個別の外出支援にて好きな物を食べに行ったり買い物を楽しんだりしていただいています。またお墓参りの要望などにも応えられるように努めています。季節ごとの行事にも外出計画を入れて全員で出かける楽しみも味わっていただいています	みちのく湖畔公園の花見、秋保里センターや地域の祭りに出掛けている。買い物や墓参り、馴染みの温泉施設など、個別の外出支援もある。玄関をでて、木立に囲まれ外気浴を楽しんだり、ゴミ捨ての手伝いの際に敷地の周りを散策してくる入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別支援での外出にて買い物やレジでのお金のやり取りなど、一人一人の力に応じて所持したり使えるように柔軟に支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れ離れに暮らす家族が心配で不安を抱いている利用者様にはご家族様から手紙を書いていただきその都度一緒に読んで頂いています。電話も状況に応じて使用できるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関には四季折々の草花を飾り季節感を味わっていただいています。また壁面装飾にも四季にまつわるものを取り入れ制作には皆さんに参加して頂けるようにしています。掃除も協力して頂き安心して居心地よく過ごせるようにしています	ホームは中庭を囲む回廊型の平屋で、日当たりが良い。玄関にはピンクの花と沢山の蕾をつけた秋海棠が飾られていた。各居室や食堂、茶の間から木立が見え、季節を感じることができる。掃除は、朝のラジオ体操後に皆で行い、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間のコタツは掘りゴタツになっており一年を通し使われています。廊下で日向ぼっこをしたり食堂でテレビや新聞を見たりと皆様思い思いに過ごして頂けるよう安全配慮し環境を整えています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には今まで使用していた寝具類や家具等食器類においても使い慣れた物好みの物を持参して頂き今までの生活と変わりなく居心地よく継続性のある生活を送って頂けるよう支援しています	居室には、洗面台、押し入れが備え付けられている。整理ダンスやラジオ、介護ベッドなどを持ち込み、壁には家族写真や手紙、カレンダー等を飾っている。生活動線を確保し、安全に過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計は皆さんが見える高さに設置し時間を意識した生活が送れるようにしています。カレンダーも各居室に飾り何月何日か確認したり行事などを書き込み楽しみにして頂いたりできるようにしています。また食堂には日めくりのカレンダーを用意しめくる役割の担当もお願いしています		